

ウィークリー知事現場訪問

松沢成文 神奈川県知事「しんわろネッサンス」ご視察

2006年4月14日、松沢成文 神奈川県知事が「ウィークリー知事現場訪問」の一環として「しんわろネッサンス」をご視察されました。

神奈川県ホームページにその際の記事が掲載されていますのでご紹介します。

現地現場主義

結果概要「知的障害者福祉工場及び認知症高齢者グループホームの訪問」

2006年4月14日

4月14日の「ウィークリー知事現場訪問」は、知的障害者福祉工場「しんわろネッサンス」と認知症高齢者グループホーム「メールブルー鵜沼」を訪問しました。

しんわろネッサンスは、社会福祉法人進和学園が3月に開設した、知的障害者の福祉工場（通所授産施設を併設）です。本田技研工業（株）の協力を得て自動車部品の組み立て加工を行っている現場を視察し、利用者とそのご家族、地域の方々と意見交換を行いました。

メールブルー鵜沼は、社会福祉法人県央福祉会が平成15年から運営している認知症高齢者グループホームです。グループホームの実情について視察し、職員や利用者のご家族の方々と意見交換を行いました。

しんわろネッサンス



各部門ごとに分かれて行っている作業について、説明を受けました。
知事：「これはどこの部品ですか」
施設：「ガソリタンクから出たガスを浄化するキャニスターです。」
知事：「完成品はどこに行くんですか。」
施設：「ほとんどが直接、ホンダのラインに入ります。ここで作っている部品は、世界で使われており、自分の車が世界を走っているという喜びが感じられます。」

(→裏面P. 2へ)

工場で熱心に働く皆さんの作業を拝見しました。

知事:「賃金の最低基準は適用されるのですか。」

施設:「福祉工場の方には適用されます。通所授産施設の方は福祉工場へのステップアップを目指して頑張っています。」

知事:「木型をつくって絶対に間違えないように作業しているんですね。」

施設:「どういうふうに作業をしたらよいか検討し、工夫しています。こういうところをホンダさんも見ると、これだったら大丈夫と納得していただけます。」



職員や利用者、家族会代表や地域の方々と障害者の自立に向けた取り組みについて意見交換を行いました。

地域の自治会長:「進和学園の皆さんは、毎朝、「おはよう」と声をかけてくれます。地域としてもありがたいです。」

施設:「私たちも、地域の皆さんに支えられてここまでやってこられました。」

家族:「自立支援法の1割負担は、本人にとっては相当な負担になってしまいます。」

知事:「自立支援法はあまりに性急でした。今後は、障害者の皆さんが自立できるように、働いて活動できるようなことをいろいろな形でつくっていかねばなりません。」

【知事の感想】

進和学園は、本田技研工業さんのご協力を得て自動車部品の組み立て加工を行うなど、知的障害者の皆さんが自立できるように、地域に根ざした活動を展開しています。知的障害者の福祉工場としては県内で2つめとなる先駆的な取組みで、障害者の皆さんの自立が少しずつ進んでいくということで、私も大変期待しています。また、本田技研工業さんとの取引の窓口として株式会社を設立して、しっかりした関係をつくられており、企業との連携において、ある意味で理想的なケースです。これからは、企業の社会的貢献という点からも、こうした企業の皆さんの協力が必要です。

進和学園では、ほかにも、しいたけづくりやパンづくりなど、皆さんが生き生きと多彩な活動を行っておられ、大変感激しました。

このページの先頭へもどる